

法親寺新聞

2015年 春彼岸号
手書き新聞 No.16



こんにちは。釋紗音です。法を聞かせていただくと、「救い」という言葉を良く耳にします。皆様にとって「救い」とは、どのような事ですか？世間では、商売が上手くいったり、受験に合格したり、病気が治ったりと、自分の欲求や願いが満たされた時、「救われた」と感じる様です。逆に、自分の思い通りにならない時は、不幸だと感じます。

人間は、その時の自分の心の状態で、幸せか不幸かを決めてしまっている様です。親鸞聖人の時代(平安時代から鎌倉時代)は、天災や飢饉、疫病が流行り、仏法も廃れていた末法の世です。

ご飯も食べられずに死んでいく人々がいる中で、厳しい修行に耐えて出家をするか、お寺に寄進できる貴族しか救われないとされていた時代でした。

そんな時に、子供やお年寄り、女性、一般の人々が、皆平等に救われる親鸞聖人の教えは、末法の世を生き抜く人々の心の支えになり、救いとなったのです。

私達は、生きている「今」から阿弥陀様に見守られ、浄土に行かせていただく事が定まっています。私が辛い時や、苦しい時、心が不安定な時であっても、阿弥陀様はいつも変わらず見守ってくださっています。ありのままが良いのです。

人間に生まれ、日々生かされている事が、稀であり、幸せな事なのです。

浄土真宗に出会い、仏法に触れて、日々を安心して生きている事が、私達の「救い」なのではないでしょうか。



御正忌報恩講法要
1月12日(月)



御正忌報恩講は親鸞聖人のご命日を縁として勤められ、浄土真宗が最も大切にしている法要です。正信念仏偈を皆様でお勤めし、千田匡真師、住職の法話を聴聞しました。



●本願寺●
通夜布教
御正忌報恩講法要
1月15日～1月16日

本山では毎年、1月9日～1月16日まで報恩講法要が勤まります。15日の通夜布教は、夜中でも部屋いっぱいの方が聴聞されました。

住職の法話

民放のドラマで「流星ワゴン」というドラマを皆さんはご覧になっておられますか。家族関係の苦悩から逃れるため、主人公の西島秀俊演じる永田一雄が人生の分岐点へとタイムスリップして同い年の父親香川照彦演じる永田忠雄(チウさん)と出会い、現在起っている事態を変えるために行動する物語です。このロケ地が福山市の鞆の浦であることや王野予市の芝川海岸やチウさんの入院している病院に芝川海岸に建つ瀬戸内マリンホテルが使われていることなどから初めは興味本位で見えたのですが、実に感慨深い内容なので見入ってしまいました。人生は因果応報ですから、実際は自分ばかりしてきたことを過去に戻ってやり直すことはできません。世の中の出来事は様々な因縁によって結果となっているので、一つの事柄を取り立ててやり直しても、思い通りの結果を得ることはできません。これがあるが故にかれあり、これ生ずるが故にかれ生ず。これなければかれなく、これ滅すればかれ滅す。この世に存在するものはすべて無量の因縁によって生じています。お釈迦様はこの因縁の道理に気づき、あらゆる苦悩から解放される道を成就されたのです。



広島県福山市鞆の浦にリテってきました。坂本龍馬が紀州藩と賠償交渉の舞台とした家と、官崎駿監督がデザインして生まれ変わった宿「角周茶漬」へ♡



19年振りにGLAYが岡山市民会館に来てくれました!!

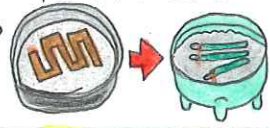
埼玉県春日部市にある「クレヨンしんちゃんミュージアム」へ行きました♡



Q... 浄土真宗ではなぜ線香を立てずに寝かすのですか？

A... 浄土真宗のお香は、香炉の中の灰に木片と型で「田」型を作り、抹香(米粉状のお香)を詰めて型を取り、それを燃やして置きました。時間を計るためにも使われていたそうです。これに準じて、お線香も寝かせて用います。

本山では今でもこの方法が使われています。



お知らせ



春季永代経法座

- 日時● 平成27年4月25日(土) 午後1時～
- 場所● 法親寺本堂
- 講師● 黒田真隆師(兵庫県宍粟市安楽寺住職)